

「やけど」とは、皮膚に高温である火、熱湯、蒸気などがふれ皮膚の表皮、真皮、皮下組織が傷害しその部位の血管から体液が漏れ出て発赤、腫脹、疼痛や水泡が起ることです。また比較的低温の物質に同じ部位が長時間ふれて起こる障害は「低温やけど」とも言います。



やけどの深さは大きく分けるとⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度の三段階に分類されます。Ⅰ度は表皮まで、Ⅱ度は真皮まで、Ⅲ度は皮下組織まで障害が及んだものです。深いやけどは感染から防ぐための皮膚に傷害が生じた上に、血液が通わないため壊死した組織が皮膚の表面にあるため細菌感染を受けやすい状態になっています。細菌感染を起こすと傷が更に深くなり治療期間が延び、治療後に色素沈着、ケロイド等を残すこともあります。そのため水泡（水ぶくれ）が生じているやけどや、やけどの部分が深く、白色、黒色、鮮やかな赤色をしている場合は医療機関での治療が必要になります。治療の基本は障害部分を清潔にして、新しい皮膚が早くできる状態にするため傷害の程度に応じた治療をします。



やけどをした時には、まず水道の蛇口から冷水をやけどの部分に20～30分ほどかけ続けます。長く冷やすほど水ぶくれができないといわれています。軽いやけどの場合は、同様に水でやけどをした所を洗いながすように20～30分程冷却します。その後、化膿予防・治療の必要がある場合、抗生物質配合のドルマイシン軟膏などの薬を塗ってガーゼをします。数日経ってもガーゼに分泌物が付いている場合は、まだ化膿しているものと思われます。こうした場合は、医療機関の受診をお勧めします。OTC薬には、上記の抗生物質以外に、水泡がない時期に使用できるものとしてはアロエ軟膏、紫雲膏などがあります。

参考：一般社団法人 日本創傷外科学会

スギ薬局 大浜店